



3.2022年度活動計画

3 2022年度活動計画（令和4年度）

3.1 福島の問題

東日本大震災から11年である。

政府方針として、帰還困難区域の中で優先して除染などを行い避難指示解除を目指す地域としての「特定復興再生拠点区域（復興拠点）」が、6町村に設けられている。

葛尾村と大熊町で今春（2022年）、双葉町で2022年6月以降の解除が予定されている。浪江町、富岡町、飯館村では来春（2023年）の解除が進められている。

（福島の避難指示解除の経過は4.1を参照）

私達に必要なとされることは、東日本大震災や原子力災害により直接的、間接的に影響を受けた地域の復旧復興を目指し、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等を目指す現地の動きに賛同して「一緒に」活動することである。従来の現地活動だけにとらわれず、現地の人々が始めようとする心の汲み取り、自分の都合を中心にするのではなく、現地の人々に寄り添って活動し、また、災害の教訓を伝え続けることである。

福島を知り、福島を伝え、福島の魅力も伝える。対話で寄り添う。

3.2 活動方針

はじめに、方針として、当事者の方、個人、行政、団体、企業など様々な方々のそれぞれの立場、環境、想いがあることを知って欲しい。その上で、私達自身が出来ること、すべきことを考えるきっかけとして頂けたらと考える。

- (1) 2022年度は「想いを寄せて、未来を一緒に見つめ、進めて行きましょう。一緒に！」を一つのキーワードに進めていく。
- (2) 2022年度も、コロナ禍にありますが「コロナ禍における活動マニュアル（健康管理、フィジカルディスタンス）」に基づき、出来ることを進めて行く。
- (3) 導入したオンラインを活用して、神奈川県内、福島においての活動・情報発信に役立てる。
- (4) 「知る、伝える」、そして「寄り添い」を継続する。
- (5) 役員は2年任期で進めて行きます。事業担当も継承して進めて行きます。

ボランティア団体として、以下で活動を進める。

- ・ 活動できる場所であることの判断（安全判断）
- ・ 活動するうえで必要とする知識（安全知識）
- ・ 活動するうえでの現地受入団体の長との情報交換（安全の担保）

現地と情報交換し、現地のニーズを確認したうえで活動を進める。

また、現地とのかかわりは長く続ける。

3.3 活動目的

3.3.1 現地活動

福島県内の復旧復興、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等の一助となるために一緒に汗を流し、つながる。

- (1) 福島県内での各種活動にボランティアとして参加して一緒に汗を流し、つながる。
- (2) 福島県内で開催される交流事業に参加し、一緒に楽しみ、心のつながりを育む。

3.3.2 連携活動

被災・避難当事者のためのつなぎ手となり、他団体や行政との連携を図る。

- (1) 神奈川県や周辺自治体、福島県の団体・行政とのつなぎ手として連携する。
- (2) 被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議等に参加する。

3.3.3 視察研修

福島県内の地域を訪問して視察研修を実施し、福島の当時・今・これからの伝えていく。

- (1) 福島の自治体や当事者との信頼関係を醸成したうえで計画、遂行する。
- (2) 視察研修の参加者報告をまとめて報告書とし、情報発信に活用する（伝える）。

3.3.4 情報発信

講演会や勉強会、イベントへの出展等を通じて、福島の実況、生の声を神奈川に伝える。

- (1) 福島から講師を招いて講演会や勉強会を企画し、直接お話を聴く機会を設ける。
- (2) 総会や懇親会と同日開催することで会員の参加を促す。
- (3) 被災地支援や市民活動にかかわるイベント等も活用し広く情報を発信する。

3.3.5 災害復旧支援

国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に緊急対応する。

- (1) 実際の活動については現地の状況に応じて決定する。
- (2) かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体としての活動を行い、平時から他団体との情報交換や連携が可能な関係を築く。

3.3.6 維持管理

福島の民間団体や個人、行政とのつながりの維持を目的として福島訪問を行う。

3.3.7 その他

有志活動の「美味しいふくしま」を通して福島の実況、文化、地域の魅力を伝える。

食べて応援、風評払拭のため、などの大義を掲げて押しつけるのではなく、純粹に美味しさ、楽しさを通じて魅力を感じていただき、日常に取り入れていただけるように情報提供する。

3.4 全体事業計画（概要）

福島活動の3つの柱である直接活動（福島県内での活動）、県内活動（神奈川県内での活動）、情報発信を中心とし5つの事業とし、以下に活動（事業詳細）を行う。

事業詳細		計画
《事業1》 現地活動	計画	<p>最大6便を計画する。</p> <p>(1)活動は、会員の企画・発案、事業担当が企画して推進する。</p> <p>(2)8人～10人乗りレンタカーで計画。活動に加えてミニ視察研修など一泊二日で地元の様子を見ることのできる企画を進める。</p>
《事業2》 連携活動	計画	<p>年4回程計画する。寄り添いが大切。活動から11年、当団体メンバーも避難を余儀なくされている方々も11年、活動も変わっていく。</p> <p>(1)各種交流会、情報連携会議に出席する</p> <p>(2)活動は、会員の企画・発案、事業担当が企画して推進する。</p>
《事業3》 視察研修	計画	<p>11月に計画する。</p> <p>団体として継続して視察研修を実施していく。</p> <p>(1)実施形態：小型バス、一泊（各自実費）</p> <p>(2)視察計画：1Fおよび中間貯蔵施設（未調整）</p> <p>(3)1Fの視察は、事実、今を知ることが目的である。</p>
《事業4》 情報発信	計画	<p>講演会、勉強会、オンラインイベント等を通じて、福島の実況、生の声を神奈川に伝える。知る機会、伝えることを目的とする。</p> <p>勉強会、講演会、市民活動フェアを計画する。</p> <p>(1)【勉強会】2022年6月18日（土）</p> <p>(2)【講演会】2023年1月14日（土）</p> <p>(3)【市民活動フェア2022】</p>
《事業5》 災害復旧支援	計画	<p>動ける体制を整える。</p> <p>国内で自然災害等が発生した場合に現地活動に限らず、動ける体制整備。実際の活動については現地の状況に応じて決定する。</p> <p>また、平時から他団体との情報交換や連携が可能な関係を築く。</p>



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画》

事業詳細	計画	
《維持管理》 現地訪問等	計 画	福島県内の民間団体、個人、行政とのつながりの維持を目的として、 現地訪問を4回実施する。 (1)総会：6月18日 (2)維持管理現地訪問、4回計画※ ※年6回へ増やす（過年度来、コロナ禍で訪問できていないため） (3)定例会は継続してオンライン（10:00-12:00）で開催する。 (4)視察研修、講演会などの調整は、各事業の計画の中で行う。

(公開・掲示用)

2022.4.1

2022年度事業基本計画

活動の3つの柱である現地活動（福島県内での活動）、連携活動（神奈川県内を含む関東圏での活動）、情報発信（広く一般の方に）を基本として事業を計画する。

事業1：現地活動

福島県内の復旧復興、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等の一助となるために一緒に汗を流し、つながる。

- (1) 福島県内での各種活動にボランティアとして参加して一緒に汗を流し、つながる。
- (2) 福島県内で開催される交流事業に参加し、一緒に楽しみ、心のつながりを育む。

事業2：連携活動

被災・避難当事者のためのつなぎ手となり、他団体や行政との連携を図る。

- (1) 神奈川県や周辺自治体、福島県の団体・行政とのつなぎ手として連携する。
- (2) 被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議等に参加する。

事業3：視察研修

福島県内の地域を訪問して視察研修を実施し、福島の当時・今・これからを伝えていく。

- (1) 福島の自治体や当事者との信頼関係を醸成したうえで計画、遂行する。
- (2) 視察研修の参加者報告をまとめて報告書とし、情報発信に活用する（伝える）。

事業4：情報発信

講演会や勉強会、イベントへの出展等を通じて、福島の現状、生の声を神奈川に伝える。

- (1) 福島から講師を招いて講演会や勉強会を企画し、直接お話を聴く機会を設ける。
- (2) 総会や懇親会と同日開催することで会員の参加を促す。
- (3) 被災地支援や市民活動にかかわるイベント等も活用し広く情報を発信する。

事業5：災害復旧支援

国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に緊急対応する。

- (1) 実際の活動については現地の状況に応じて決定する。
- (2) かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体としての活動を行い、平時から他団体との情報交換や連携が可能な関係を築く。

維持管理

福島の間団体や個人、行政とのつながりの維持を目的として福島訪問を行う。

その他

有志活動の「美味しいふくしま」を通して福島の食、文化、地域の魅力を伝える。

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)



3.5 事業詳細

3.5.1 《事業1》現地活動

(1) 現地課題

特定復興再生拠点区域（復興拠点）の葛尾村と大熊町で今春(2022年)、双葉町で6月(2022年6)以降の解除、浪江町、富岡町、飯舘村では来春(2023年)の解除が計画されている。

復旧復興のスピードは過年度来同様に一様ではなく、当事者間での格差も生まれている。一方で、現地の方々や事業者で対応できることは自ら解決する、ある意味で当然とも言える動きもあり、遠方からボランティアに行くこと自体、もう必要ないとの声もある。この事業では、福島県内の復旧復興、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等の一助となるために、現地で必要とされることをお手伝いする。一時的なボランティア活動ではなく、地域を支える一助となれるよう継続的にかかわっていくことも必要である。

この11年、これからも「想いを寄せて、未来を一緒に見つめ」継続的にかかわっていくことは大切である。

また、継続してコロナ禍であり、コロナ禍の活動マニュアルに即して活動していく。

(2) 活動目的

福島県内の復旧復興、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等の一助となるために、現地で必要とされることをお手伝いする。

一時的なボランティア活動ではなく、地域を支える一助となれるよう継続的にかかわっていくことも必要であり、現地へ足を運ぶことを継続する。地域とのつながりも醸成する。

(3) 活動計画

(参加者数)

計画	実績
最大6便を計画する。	

(4) 計画予算 (単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	372,000		合計	372,000	
			収支(△繰越)	0	

(補足1) 広域便のレンタカー利用時は、レンタカー代、ガソリン代、高速代はkfop事業費を充当する。他の実費は参加者負担。

(補足2) 現地集合・解散の参加者負担軽減として、コロナ禍の活動マニュアルに即して、一部費用をkfop事業費に計上する。(電車、バス、自家用車、自家用車に相乗り(最大2名)時に各々の条件の中でkfop事業費に計上する)



3.5.2 《事業 2》連携活動

(1) 課題

活動から 11 年、当団体メンバーも避難を余儀なくされている方々も 11 年、寄り添いが大切。自治体や社会福祉協議会、民間団体等との情報交換、連携は必要である。

環境、想いは様々、帰還困難区域を中心としていまだ避難を余儀なくされている方々もあれば、家族や仕事などのさまざまな事情により避難を継続されている方々もいる。新たな土地に移住して生活を再建された方々の中にも、故郷とのつながりを持ち続けようと望んでいる方がいる。

(2) 活動目的

故郷とのつながりを持ち続けようと望んでいる方々の声に耳を傾け、地域の仲間として共に進んでいく。そのためにも、情報収集に努めながら、当事者や自治体とのつなぎ手として引き続き協力が必要である。

(3) 活動計画

(参加者数)

計画	実績
被災・避難当事者のためのつなぎ手となり、他団体や行政との連携を図る。また、被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議等に参加する。	

(4) 計画予算

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	172,000		合計	172,000	
			収支(△繰越)	0	

3.5.3 《事業 3》視察研修

(1) 課題

東日本大震災から 11 年。今春からも特定復興再生拠点区域（復興拠点）の解除が計画されていく。そして興味本位での視察としないためにも控えてきたイチエフの視察を今年度模索する。10 年過ぎたイチエフの事実、今を知る。また、中間貯蔵施設への汚染土の搬入も進み、中間貯蔵施設周辺の様子も大きく変わったであろう。視察を通じて廃炉作業の現状を知り、中間貯蔵施設の周辺の様子を知る。

福島にかかわり活動する者として現地の最新の状況を学び、伝えていく必要がある。現地を訪れて、自分の目、耳、体でまず感じる。そして、その上で現地の今を神奈川に伝える。

(2) 活動目的

視察を通じて廃炉作業の現状を知り、中間貯蔵施設の周辺の様子を知り、当事者の心情に寄り添いながら kfop の今後の活動に生かしていただくこと」目的とする。

(3) 活動計画

コロナ禍は継続している。

現地調整、実施形態も検討して、実現へ進めて行く。

(参加者数)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021 年度(R03)活動実績・2022 年度(R04)活動計画≫

計画	実績
信頼関係を醸成しながら計画する。同時に、参加者の負担減や参加しやすさも模索する。	

(4) 計画予算

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	337,000		合計	337,000	
			収支(△繰越)	0	

(補足 1) 視察研修便は参加者負担を考慮して計画していく。

3.5.4 《事業 4》情報発信（講演会等）

(1) 課題

東日本大震災、福島県の原子力被災から 11 年である。

特定復興再生拠点区域（復興拠点）の解除と新たな段階的が進んでいく。一方で、一般の方々の関心の薄れ、関りの薄れも進んでいく。現状を知ろうとしなくなる。伝わらなくなる。私たち福島県外に住む者は、関心を薄れさせることなく、福島について知って、学ぶことを続けることが大切である。対話も学ぶ必要がある。

また、コロナ禍で活用のオンラインは有効な発信手段である、引き続き活用していく。

(2) 活動目的

福島にかかわり応援する者として現地の状況と課題を知り、伝える必要がある。それには、被災当事者の方や現地で活動している方、福島にかかわっている方をお招きし、生の声を神奈川に伝えるのが効果的である。現地の方を招き講演会などを継続し、神奈川に福島を伝えていく。

(3) 活動計画

(参加者数)

計画	実績
講演会、勉強会（年に 2 回、上期に勉強会、下期に講演会）を通じて現状を伝え、理解を深める。また会および懇親会も含めオンラインを活用する。被災地支援や市民活動にかかわるイベント等も広く情報を発信する。	

(4) 計画予算

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	521,000		合計	521,000	
			収支(△繰越)	0	

(補足 1) 講師招致費、講師調整の打ち合わせ等の旅費交通費も含む。

3.5.5 《事業 5》災害復旧支援

(1) 課題

動ける体制整備が至近の課題である。

その上で、コロナ禍で規模を問わず自然災害発生した時に、神奈川に居ての支援、現地に行ける時の支援、など日ごろからの備えが必要。

また、平時から顔の見える関係を築き、情報交換と連携ができるようにして、いざというときにバランスよく支援が行えるための体制づくりが必要である。

(2) 活動目的

国内で自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に対応することを事業として明確にし、体制づくりをする。実際の活動については神奈川に居て、現地に行つてなど状況に応じて決定する。かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体としての活動を行い、平時から他団体との情報交換や連携が可能な関係を築いていく。

(3) 活動計画

(参加者数)

計画	実績
災害への備え、平時から他団体との情報交換を行える体制作り。予算は現地費用に限らず。	

(4) 計画予算

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	100,000		合計	100,000	
			収支(△繰越)	0	

3.5.6 《維持管理》

(1) 課題

各事業を企画運営するうえで、福島県内の行政、社会福祉協議会、民間団体等との連携は不可欠である。担当者の異動や交代なども考慮して、定期的な訪問でつながりを維持することが重要である。また、当団体の維持（定例会議場、web アルバム、zoom 契約費用等）も必要。

(2) 活動目的

年 4 回の現地訪問を維持管理、各業の計画調整の目的で訪問する。

また、定例会議場、web アルバム、zoom 契約費用等、維持管理全般を目的とする。

(3) 活動計画

(参加者数)

計画	実績
年 4 回※の訪問を計画する。他維持諸活動	

(4) 計画予算

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	464,841		合計	464,841	
			収支(△繰越)	0	

※計画後に 6 回へ変更（過年度来、コロナ禍で訪問ができていないため）

3.5.7 《関連事業》

有志活動である「美味しいふくしま」を継続する。



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

3.5.8 事業予算 (期初計画)

(1) 活動計算書



活動計算書

かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

2022年4月1日 ~ 2023年3月31日まで

(単位:円)

科目	金額					
	計画 金額(小計)	実績 金額(小計)	計画 金額(中計)	実績 金額(中計)	計画 金額(合計)	実績 金額(合計)
I 経常収益						
1. 受取会費						
受取会費	100,000	0	100,000	0		
2. 受取寄付金						
受取寄付金(一般)	200,000	0	200,000	0		
受取寄付金(目的)	0	0				
3. 受取支援金等(寄付)						
受取民間支援金1	200,000	0				
受取民間支援金2	50,000	0	250,000	0		
4. 事業収益						
事業1収益		0				
事業2収益		0				
事業3収益		0				
事業4収益		0				
事業5収益		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
維持収益		0	0	0		
5. その他収益						
受取利息		0	0	0		
経常収益計					550,000	0
II 経常費用						
1. 事業費						
(1) 人件費	0	0				
人件費計	0	0				
(2) その他経費						
事業支払負担金	0	0				
事業諸謝金	180,000	0				
事業源泉徴収額	8,000	0				
事業印刷製本費	20,000	0				
事業会議費	100,000	0				
事業旅費交通費	989,000	0				
事業通信運搬費	0	0				
事業消耗品費	0	0				
事業保険料	0	0				
事業支払手数料	0	0				
事業支払寄付金	0	0				
事業諸会費	1,000	0				
事業雑費	204,000	0				
その他経費計	1,502,000	0				
事業費計			1,502,000	0		
2. 管理費						
(1) 人件費	0	0				
人件費計	0	0				
(2) その他経費						
管理支払負担金	0	0				
管理印刷製本費	48,000	0				
管理会議費	30,000	0				
管理旅費交通費	160,000	0				
管理通信運搬費	7,500	0				
管理消耗品費	0	0				
管理保険料	0	0				
管理支払手数料	0	0				
管理支払寄付金	0	0				
管理諸会費	26,200	0				
管理雑費	193,141	0				
その他経費計	464,841	0				
管理費計			464,841	0		
経常費用計					1,966,841	0
当期正味財産増減額					-1,416,841	0
前期繰越正味財産額					1,416,841	1,416,841
次期繰越正味財産額					0	1,416,841

(2022年4月1日 現在)

(2) 貸借対照表

貸借対照表



かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

2022年4月1日 ～ 2023年3月31日まで

(単位:円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
横浜BK会費口	1,416,841		
横浜BK寄付口	0		
仮払金	0		
流動資産合計		1,416,841	
2. 固定資産			
固定資産	0		
固定資産合計		0	
資産合計			1,416,841
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	0		
前受金	0		
未払金	0		
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
役員借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		1,416,841	
当期正味財産増減額		0	
正味財産合計			1,416,841
負債及び正味財産合計			1,416,841

(2022年4月1日 現在)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

(3) 財務諸表の注記

財務諸表の注記



かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

(会計期間 : 2022年4月1日 ~ 2023年3月31日まで)

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準によっています。
 資産は、口座預金(会費口、寄付口)のみ、固定資産なし。借入等の負債なし(前受、仮受を除く)

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	事業1 現地活動	事業2 連携活動	事業3 視察研修	事業4 情報発信	事業5 災害支援	事業 部門計	維持管理	合計
I 経常収益								
※1 1. 受取会費(新規)	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画	0	0	0	0	0	0	100,000	100,000
※1 2. 受取寄付金(新規)	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画	100,000	100,000	0	0	0	200,000	0	200,000
※1 3. 受取支援金等	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画	0	0	100,000	150,000	0	250,000	0	250,000
※1 4. 受取目的寄付等	0	0	0	0	0	0	0	0
(※2助成金)【事業計画	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 事業収益(参加費)	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画	0	0	0	0	0	0	0	0
※1 6. 前期繰越金(寄付)	0	0	0	0	0	0	0	0
※1 7. 前期繰越金(目的)	0	0	0	0	0	0	0	0
※1 8. 前期繰越金(会費)	272,000	72,000	237,000	371,000	100,000	1,052,000	364,841	1,416,841
9. その他収益	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	272,000	72,000	237,000	371,000	100,000	1,052,000	364,841	1,416,841
【事業計画計	372,000	172,000	337,000	521,000	100,000	1,502,000	464,841	1,966,841
II 経常費用								
(1)人件費	0	0	0	0	0	0	0	0
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)その他経費								
諸謝金	0	0	0	0	0	0	0	0
源泉徴収額	0	0	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0
車両費	0	0	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0
支払手数料	0	0	0	0	0	0	0	0
支払寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	0
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0
その他経費計	0	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	272,000	72,000	237,000	371,000	100,000	1,052,000	364,841	1,416,841

(※1:表示項目の金額は寄付口から会費口(事業用口座)へ振替額または予定額を示す。)

3. 目的寄付・支援金の内訳「(限定)は使途制限ありの目的寄付・助成金等」

内容	期首残高	当期 増加額	当期 減少額	期末残高	備考
受取支援金1 (申請:200,000円)計画	68,082	0	0	68,082	(繰越)事業5:災害復旧支援
受取支援金2 (申請:50,000円)計画	50,000	0	0	50,000	(繰越)事業4:情報発信(講演会)
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
合計	118,082	0	0	118,082	

(2022年4月1日 現在)



3.6 2022年度の役員・スタッフ

3.6.1 役員・スタッフ

区分	役割	氏名	兼務等	
役員	代表	渡辺 孝彦	重任	兼 会計、渉外、 あゆむ会副理事長、SSVN 運営委員
	広報	東 尚子	重任	
		村上 幸	重任	
		長崎 羊子	重任	
		平野香誉子	新任	
監事		田村 武司	新任	監事（業務監査、会計監査）
協力スタッフ (敬称略) 18人	森本健、矢島國紀、池田学、荒川朱美、森田清、北田美代子、岡村恭子、岩崎眞澄、柿木都、山下潔、田村武司、小村清一、長田剛、福田光、倉島勝治、武田恒男、橋本洋子、木幡四郎、			

(説明1) 役員任期は2年(2022年度総会～2024年度総会迄)で継続。

(説明2) 協力スタッフ：会員に限らず都合の着く時に事業に協力していただける方

3.6.2 事業担当

事業	事業名	主担当	
事業1	現地活動	役員	渡辺孝彦, 東 尚子
		協力	1-2:倉島勝治, 1-3:小村清一, 池田学, 長田剛, 福田光, 北田美代子, 倉島勝治
事業2	連携活動	役員	東 尚子, 渡辺孝彦, 長崎羊子
		協力	2-1:倉島勝治, 2-2:矢島國紀
事業3	視察研修	役員	渡辺孝彦, 東 尚子
		協力	3-1:北田美代子, 矢島國紀
事業4	情報発信	役員	東 尚子, 渡辺孝彦, 平野香誉子, 村上 幸
		協力	4-1:森本健, 矢島國紀, 北田美代子, 岡村恭子, 柿木都, 岩崎眞澄, 田村武司, 4-3:矢島國紀
事業5	災害復旧支援	役員	村上 幸, 兼務 渡辺孝彦
		協力	5-1:池田学, 荒川朱美, 倉島勝治, 5-2:矢島國紀 5-3:森田清
維持管理	維持管理	役員	渡辺孝彦, 東 尚子
		協力	6-1:森本健
(関連事業)	美味しいふくしま	役員	村上 幸, 東 尚子
		協力	7-1:岡村恭子, 山下潔, 倉島勝治, 武田恒男, 橋本洋子, 木幡四郎

(説明) 協力：会員に限らず都合の着く時に事業に協力していただける「協力スタッフ」



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

≪事業毎に協力していただきたい内容は異なります≫

- 【事業1】 1-1【現地活動】現地活動リーダー
- 1-2【現地活動】活動報告作成（アンケート集計、活動報告、写真など）
- 1-3【現地活動】運転スタッフ（安全運転の前提）
- 【事業2】 2-1【連携活動】広域避難関係の交流会、勉強会、講演会出席など
- 2-2【連携活動】災害等の連携活動（会議出席、情報連携など）
- 【事業3】 3-1【視察研修】視察研修報告の文章起こし（word）
- 【事業4】 4-1【情報発信】情報発信全般の企画、運営
- 4-2【情報発信】勉強会・講演会の企画、運営、報告書作成
- 4-3【情報発信】市民活動フェアの企画、運営、報告書作成
- 【事業5】 5-1【災害復旧支援】災害復旧支援の全般（企画、運営、報告など）
- 5-2【災害復旧支援】災害情報収集&情報発信（メール,HP,FBなど）
- 5-3【災害復旧支援】助成金申請～報告までの手続き
- 【維持管理】 6-1【維持管理】Webアルバム保存
- 【美味しいふくしま】
- 7-1【美味しいふくしま】調理担当、飲み物コーナー担当、写真

3.6.3 2022年度の会員状況（2022.06.14時点）

（単位：人）

区分		総人数	女性	男性
正会員	0/A	30名(-8)	11名(-3)	19名(-5)
一般会員	1	132名(+11)	47名(+4)	85名(+7)
賛助会員	2	14名(-3)	7名(-1)	7名(-2)
情報発信	8	23名(±0)	10名(±0)	13名(±0)
参加登録	9	91名(-1)	35名(±0)	55名(-1)
合計		289名(±1)	110名(±0)	179名(±1)

（補足）（）内は前年度2022年3月31日対比

3.7 最後に

当団体は、**2022年度**も活動を進めます。

信頼関係を築きながら長期的にかかわることを前提とし、福島の方々とのつながりを育み、維持することを目指します。

福島の環境は絶えず変わっていきます。今では私たち以上に元気と笑顔が福島にあふれています。共にかかわることが求められているのが現在です。

私たち、みんなの環境も11年と少しずつですが、変わってきていると思います。その中におかれましても、福島に心をお寄せいただくことができましたら幸いです。

当団体は「福島応援」を掲げて活動を続けていますが、応援の意味するところは「一緒に」ということです。友人・仲間として繋がっていくことは簡単ではありませんが、神奈川から福島へ足を運び続けたい。

福島の現地に、そして、神奈川に避難を余儀なくされている方々が必要とされることに対し、寄り添い、少しでもお手伝いさせていただければと考えています。

福島の元気に！
福島の笑顔に！
福島を伝える！
福島に長くかかわる！
福島に会いに行く！

私たちは、無理をして活動を続けているのではなく、福島に行きたいから行く。
元気に、明るく、楽しく参加者と活動を続けていきます。
福島を応援し、一緒に汗を流し、共感し、かかわり続けます。

「想いを寄せて、未来を一緒に見つめ、進めて行きましょう。一緒に！」

2022年度もよろしく申し上げます。

2022年4月1日
かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
代表 渡辺孝彦／スタッフ一同

4 補足資料

4.1 福島避難指示解除の経過

東日本大震災からの避難指示解除の経過は以下のとおりである。

田村市	2014年4月01日 (H26) 解除 (都路地区)
川内村	2014年10月1日 (H26) 避難指示解除準備区域 (東部) を解除 2016年6月14日 (H28) 区域見直し後の全域を解除
檜葉町	2015年9月05日 (H27) 解除
南相馬市	2016年7月12日 (H28) 帰還困難区域を除き解除 (主に小高区)
双葉郡葛尾村	2016年6月12日 (H28) 帰還困難区域を除き解除
相馬郡飯舘村	2017年3月31日 (H29) 帰還困難区域を除き解除
双葉郡川俣町	2017年3月31日 (H29) 解除 (山木屋地区)
双葉郡浪江町	2017年3月31日 (H29) 帰還困難区域を除き解除
双葉郡富岡町	2017年4月01日 (H29) 帰還困難区域を除き解除 2020年3月05日 (R02) 帰還困難区域の一部 (夜ノ森駅周辺) を解除
双葉郡大熊町	2019年4月10日 (H31) 帰還困難区域を除き解除 2020年3月05日 (R02) 帰還困難区域の一部 (大野駅周辺) を解除
双葉郡双葉町	2020年3月04日 (R02) 避難指示解除準備区域と双葉駅周辺を解除

現地で必要とされることは、東日本大震災や原子力災害により直接的、間接的に影響を受けた地域の復旧復興を目指し、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等を目指す現地の動きに賛同して「一緒に」活動することである。従来の現地活動だけにとらわれず、現地の人々が始めようとする心の汲み取り、自分の都合を中心にするのではなく、現地の人々に寄り添って活動し、また、災害の教訓を伝え続けることである。

4.2 活動様子（年度毎、事業毎の記録・写真）

4.2.1 2011年度の活動様子

～これは震災後初期の“渡辺個人”の活動記録（参考まで）～

(1) 活動日

2011.5.5（木）終日～6（金）午前

(2) 被災地(折戸地区)

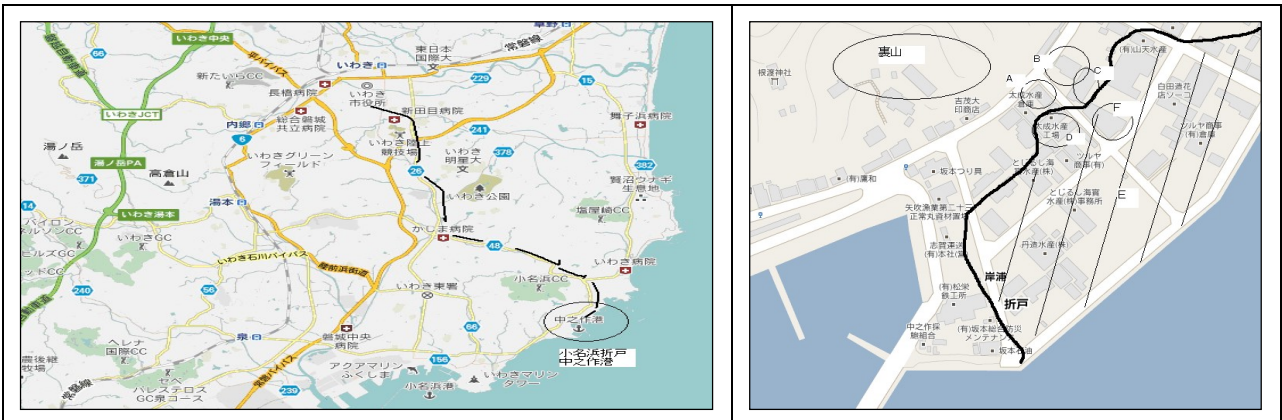
いわき市災害救援ボランティアセンター

運営：いわき市社会福祉協議会

住所：いわき市平字菱川町1番地の3 いわき市社会福祉センター1階

(3) 地図

被災地：小名浜折戸地区（中之作港脇）＜いわき市から車で約30分＞



(4) 被災状況

海岸から裏山まで約200M、ほぼ全域が被災

A：ボランティア依頼被災者宅（床上浸水、半壊、D工場が壁になった）

B：Aさんの息子宅（無傷、C病院が壁になった、息子：福島空港勤務 孫：千葉（GWで帰郷））

C：病院（半壊、一階は使用不能、病院は休業中）

D：工場は全壊

F：家が跡形もなく全壊（二人亡くなられた）

E：この一体がほぼ壊滅状態（いわき市に避難中）、重機で撤去し道は通れるようになった。被災し潰れた車はそのまま、流された家のがれきは大量に付いた。

■1ヶ月以上経ってのGWようやく地区に入れ片付けがはじめられたとのこと。

■今後のお住まいは、ご両親（A）が息子さんのB宅に住まわれる息子さんは須賀川の勤務先借家（福島空港）

■A宅は、住めるかは分からないが、畳を上げ片付中

■下水は使えず、お風呂はBの裏手の方にある兄弟宅で入っている

■支援時はA（ご両親人）、B（息子、孫）、親戚（兄弟宅）の3家族5人で片づけをされていた。

(5) 活動状況

【支援事前】

09：30 ボランティアセンターに到着し受付（センター5Fで）



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画》

- 09:40 ボランティア名簿一覧に記載し待機室へ入室
09:45 待機室で詳細資料の記載（血液、免許有無、特技、緊急連絡先、車提供可否など）
10:00 ボランティア事前説明会（個人情報管理、他諸注意事項）、約15分
10:30 ボランティアマッチング（支援依頼と支援者のマッチング、車提供）

【支援開始】

- 11:00 支援メンバー・支援宅・リーダー決め（車運転者は除く）・資材決定し移動準備・移動。支援先、内容（Aさん宅の敷地回りの側溝と通路の確保（約25m位））
車2台、メンバー8名（内4名は12:30で引き上げ）で移動開始、約30分かかる
11:30 到着車、ご挨拶と早速作業開始
12:30 名引き上げ、追加要請した後発5名到着
12:30 昼食
12:40 作業再開
13:50 休憩
14:00 作業再開
15:00 大方目処が付いた、後片付け
15:30 引き上げ

【支援終了】

- 16:00 ボランティアセンターへ到着、報告を作成し解散（4時センター到着がル

【当日支援者数・状況】

- ・参加者：400名
- ・天気：曇り（作業には丁度良かった天気）
- ・ボランティアマッチング待ち時間：約30分（全体待ちは約1時間）
- ・持ち物：スコップ、軍手、厚手の手袋、ゴム手袋、水、昼食、かっぱ、防塵マスク
- ・服装：作業着（本当の作業着）、長靴（金具の灰居たもの）、リュック（貴重品）
- ・車：移動に提供、4人ずつで相乗り（地図、ナビで移動）

【支援メンバー】

-----午前で終了メンバー-----

- ・岐阜の若者：二人で、車、大分慣れた感じ、一泊2日、2日目は午前で終了。てきぱきこなして作業していた。段取りが良い。（午前で終わり）
- ・会津の親子：お母さんと息子、医者とのこと、日帰り（午前で終わり）。実質30分程しか出来なかった。残念がっていた。

-----終日メンバー-----

- ・東京の主婦：一人で、三泊四日（5千円の宿、宿は20cmほど敷地が沈下）リーダー役をした。サバイバルナイフでハムを食べてた。慣れてた。
- ・大阪の学生：一人で大阪から電車に来てホテルに三泊（8千円×三日）。少々頼りなかったが、今しか来れないと、中々。
- ・いわき市の主婦：地元ではないが被災していないのでと、支援に（二泊位の様子）。活動的ではなく、口数も少なかった。

-----午後メンバー-----

- ・千葉の若者？（30歳～40歳位）：実家は栃木か茨城とか、食べ物を沢山持ってきた、パワフル。後発支援組み、電車で来た。小さいスコップ持参（側溝に役立った）
- ・町田の女性：電車で、力持ち、一人で一輪車に土嚢を積んで、集積場所に黙々と作業。無理するなと言うと、大丈夫！と、被災された方が一緒に手伝った。
- ・地元の若者：高校出たばかり（いわき市の工業高校）の元ラグビー部の頼りになる二人連れ。学生かと思ったと言ったら、ほめられたのか？とスコップでの泥かき出しは一番仕事してくれた。元気良かった。GW期間中毎日来ている、と。

【作業内容】

- ・埋まった側溝：側溝の上の、がれき・ガラス・石・ブロックの撤去（匂いがすごい）
- ・側溝の上の土出し：がれきが片付いたら、側溝が見えるように上の泥かき（重労働）
- ・側溝の泥かき：水が流れるように、綺麗に。角型スコップが入らず（重労働）
- ・私道の泥かき：側溝両脇を歩けるように、泥かき・整地（土建仕事）
- ・土嚢の搬出：集積場へ一輪車で（土嚢、がれき、割れ物などなど）
- ・後片付け：周りをきれいにして掃除
- ・最終確認：依頼された方へ作業場所を見ていただいて、了解を受け終わり
- ・引き上げ：メンバー（怪我がないか）、資材の点検（忘れ物はないか）し引き上げ

(6) 状況と所感

- ・高速道路は5月5日GWのはざまとすることもあって、横浜町田からいわき中央まで渋滞もなくすいすいで行けた。料金も休日料金（5月6日平日も料金は休日料金）。
- ・常磐道の北茨城・日立あたりから道路状況が悪くなった。修理箇所とか多くあり、特に橋の所の段差があり、100k/時以上出していると車はジャンプする。
- ・同じく、途中から瓦の落ちた家が散見されるようになった。
- ・いわき市まで大体4時間で着いた。駅近くの街中もビルは地番沈下、古い家は倒壊が散見。
- ・市役所の駐車場に付き、SVCへ移動、途中のいわき文化交流館に居た人に道を尋ねたら小名浜からの避難者家族だった。
- ・SVCでの事前の説明会では地元のスタッフが色々説明、標準語のつもりだが、ふくしま弁で言葉が分からなかったら質問して、と一応笑いを獲っていた。
- ・マッチングの待ち時間が意外と長かった、次々に支援者が増えて着た。マッチングで、xxの仕事とスタッフが言うが、実際はなかなか手が挙がらない泥かきは一度すると中々大変な感じ。
- ・支援先、メンバーが決まり、リーダー役決め（緊急連絡があるので運転手以外）
- ・メンバーとは車で移動の30分の中でコミュニケーションが取れた（何処から、何時までとか）
- ・作業の途中までは、被災者の方は中々近寄らずに居たが、親戚のおじさんが入り、B宅の主人・孫が入りと、みんなで片づけを進めた。多分見ていられなかったのだろう。
- ・親戚のおじさんは、お孫さんに白髪のおじさん（私のこと）より力がないな一と、笑わせた。
- ・休憩中にその親戚のおじさんに湾を案内して頂いた、昔は多くの漁師さんがいたが200海里問題で廃業せざるを得なくなった人が多く居た、と。良い海なんだがな一、原発もな一、と。がれきもどこも引き取ってくれないから、一ヶ月経っても変わらない。家族だけで綺麗にするのは無理、助かったと。綺麗になったら、釣りに来てくれと言われた。
- ・5月6日の朝2時頃に震度5弱の地震、ホテルが“ゆっさゆっさ”とゆれ、倒れるかと思った。ホテルもまだ修理途中。その後も続いて、作業で体は痛いし、魚の腐った匂いは鼻・服に付き、寝不足だし。5月6日は挨拶をして早めの帰宅となった。
- ・GWが明け、人数が100人程に落ちた（ピークは千人位）とのこと。
- ・行ってみて分かること（被災者、支援者、スタッフ、避難者、町の人、街）が多い。

～渡辺～

4.2.2 2011年度の活動様子（福島応援隊）※kfopの任意団体設立の前身活動です。

 <p>20111029 福島応援隊#1 大波地区分校</p>	 <p>20111029 福島応援隊#1 分校の落ち葉の片付け</p>	 <p>20111029 福島応援隊#1 地区長さん</p>
 <p>20111112 福島応援隊#2-1 集会場（集合場所）</p>	 <p>20111112 福島応援隊#2-2 大波地区（民家の客土）</p>	 <p>20111112 福島応援隊#2-3 大波地区（民家の客土）</p>
 <p>20111126 福島応援隊#3-1 福島市危機管理室</p>	 <p>20111126 福島応援隊#3-3 大波小学校（その後廃校）</p>	 <p>20111126 福島応援隊#3-4 大波地区の民家</p>
 <p>20111210 福島応援隊#4-1 作業の説明（菅野さん）</p>	 <p>20111210 福島応援隊#4-2 福島市社協さんと大波地区</p>	 <p>20111210 福島応援隊#4-3 大波地区、3t分</p>

4.2.3 2012年度の活動様子



20120414-1 福島 1 便
 弁天山公園へ



20120414-2 福島 1 便
 集合・説明



20120414-2 福島 1 便
 福島市危機管理室、菅野さん



20120519-1 福島 2 便
 安達太良 SA から安達太良山



20120519-2 福島 2 便
 大波城址公園 (ひまわり畑)



20120609-1
 大波城址公園 (ひまわり播種)



20120609-2
 地区の方のお話 (ひまわり播種)



20120802 ふるさとコミュニティ in
 かながわ (第1回)



20120825 福島 5 便
 南相馬初回 (鹿島区社協)



20120901
 なみえしゃぼりば (馬場町長)



20120910 町別交流会
 (富岡町 1 回目)



20120921 福島 6 便
 南相馬市小高区塚原地区



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫



20120921 福島 6 便
 (南相馬市小高区塚原地区)



20121008 町別交流会
 (-双葉町 1 回目)



20121013 会津避難先にて
 (大熊町、大野・熊川)



20121017 町別交流会
 (大熊町 1 回目)



20121109 町別交流会
 (楡葉町 1 回目)



20130223 福島 12 便
 (花に願いを 1 号：街中掃除)

4.2.4 2013 年度の活動様子



20130420 福島 13 便
 (花見山 1 号)



20130420 福島 13 便
 (花見山 1 号：阿部さん宅)



20130518 福島 14 便
 (花に願いを 2 号：街中掃除)



20130728 水害支援
 (西伊豆 1 号 kfop バス)



20130810 いわき・福島へ
 (ふるさとバス 1 号)



20130810 いわき・福島へ
 (ふるさとバス 1 号見送り)

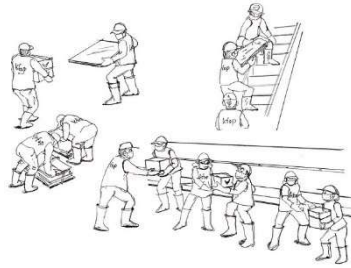
 <p>20130824 福島 17 便 (花に願いを5号)</p>	 <p>20130824 町別交流会 (浪江町 1 回目)</p>	 <p>20130907 福特 2 便 (南相馬 3 号)</p>
 <p>20131214 福島 21 便 (花に願いを：街中掃除)</p>	 <p>20140222-1352 福特 7 便 (南相馬市小高区)</p>	 <p>20140222-1352 福特 7 便 (南相馬市小高区)</p>
 <p>20140321 福德 8 便 (南相馬市小高区)</p>	 <p>20140321 福德 8 便 (南相馬市小高区)</p>	 <p>20140321 福德 8 便 (南相馬市小高区)</p>

4.2.5 2014 年度の活動様子

 <p>20140412 福島 35 号 (花見山 2 号：茶屋沼公園)</p>	 <p>20140412 福島 35 号 (花見山 2 号：花見山)</p>	 <p>20140412 福島 35 号 (花見山 2 号：阿部さん宅)</p>
--	---	--



20140524-福島 37 便
 (南相馬 12 号)



20140524-福島 37 便
 (南相馬 12 号)



20140524-福島 37 便
 (南相馬 12 号)



20140628-福島 39 便
 (南相馬 13 号)



20140824 福島 41 便
 (南相馬 15 号)



20140908 かながわ
 (丹波水害支援)



20140914 ふるコミ 5



20141025-福島 43 便
 (南相馬 17 号)



20141213-福島 45 便
 (南相馬 19 号)



20141213-福島 45 便
 (南相馬 19 号)



20150310 感謝状贈呈
 (シティアクセス株式会社様へ)



20150330 感謝状贈呈 (一般財団法人
 神奈川県建築安全協会様へ)

4.2.6 2015年度の活動様子



20150411 福島 48 便
 (富岡町視察研修：夜の森)



20150411 福島 48 便
 (富岡町視察研修：減容施設)



20150411 福島 48 便
 (富岡町視察研修：学びの森)



20150411 福島 48 便
 (富岡町視察研修：遺構)



20150411 福島 48 便
 (富岡町視察研修：学びの森)



20150425 福島 49 便
 (南相馬市)



20150523 福島 50 便
 (金房ボラセン前)



20150523 福島 50 便
 (萱浜)



20150523 福島 50 便
 (塚原)



20150803 復興バー



20150808 福島 53 便



20151013-訪問



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫



20151016 川内村
 (有志1号)



20151024-25 福島 56
 (視察研修：大熊町)



20151024-25 福島 56
 (視察研修：大熊)



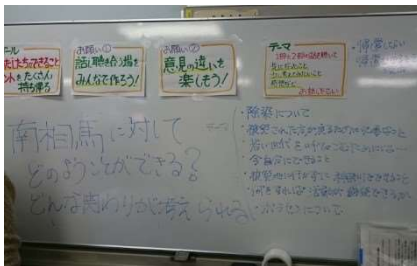
20151212 福島 58 便
 (南相馬 29 号／ひまわりカフェ)



20160109 講演会
 (鈴木センター長)



20160109 講演会
 (村田小高区長)



20160109 講演会
 (講演会後の勉強会)



20160227-1 福島 59 便
 (南相馬市小高区)



2016-02-26-67 福島 59 便
 (南相馬 30 号)



20160321
 市民活動フェア



20160321
 双葉郡未来会議



2016-03-25-26 福島 60 便
 (南相馬 31 号)

4.2.7 2016年度の活動様子



【事業1】小高区ボラバス



【事業2】相双ボラ参加



【事業2】川内村ブドウ植栽ボラ



【事業4】双葉郡未来会議参加



【事業4】ふるさと未来創造会議参加



【事業5】双葉町視察研修便



【事業5】浪江町視察研修便



【事業6】第2回講演会



【事業6】第3回講演会



【事業7】2017市民活動フェア



【有志活動】相馬野馬追観戦



【有志活動】美味しい福島伝え隊

4.2.8 2017年度の活動様子



20170408 川内村ブドウ植栽(初回)



20170708-復興バー@銀座



20170722 福島 75 便(南相馬 44 号)



20170826 福島 76 便(南相馬 45 号)



20171007 福島 83 便(葛尾村 01 号)



20171014 福島 78 便(視察研修 5)



20171014 福島 78 便(視研修 5 号)



20171015 福島 78 便(視察研修 5 号)



20171216-17 川内村ワイン



20180120 講演会



20180224 福島 81 便(南相馬 49 号)



20180225 福島 81 便(南相馬 49 号)

4.2.9 2018年度の活動様子

【事業1：現地活動】（浪江町）



20180421 福島 86 便(浪江町 03 号)



20180421 福島 86 便(浪江町 03 号)



20180519 福島 87 便(浪江町 04 号)



20180609 福島 88 便(浪江町 05 号)



20180609 福島 88 便(浪江町 05 号)



20180721 福島 89 便(浪江町 06 号)



20180825 福島 90 便(浪江町 07 号)



20180922 福島 91 便(浪江町 08 号)



20181020 福島 92 便(相双ボラ 01)



20181020 福島 92 便(相双ボラ 01)



20181124 福島 95 便(浪江町 10 号)



20181208-2 福島 95 便(浪江町 11 号)

【事業1：現地活動】 (川内村)



20180411 福島 99 便 (川内村 02 号)



20180414 福島 99 便 (川内村 02 号)



20181215 福島 102 便 (川内村 04 号)



20181216 福島 102 便 (川内村 04 号)



20190330 福島 98 便 (川内村 05 号)



20190331 福島 98 便 (川内村 05 号)

【事業1：現地活動】（葛尾村）



20180626 福島 100 便
 (葛尾村 02 号・川内村 03 号)



20180626 福島 100 便
 (葛尾村 02 号・川内村 03 号)



20181008 福島 101 便 (葛尾村 03 号)



20190525 福島 104 便
 (葛尾村 04 号/川内村 07 号)

【事業2：連携活動】



20181102 葛尾の新米



20190322 葛尾村



20190328azbil 防災企画



20190328azbil 防災企画

【事業3：視察研修】



20190216 福島 93 便 (視察研修 6 号)



20190216-2 福島 93 便 (視察研修 6 号)



20190217 福島 93 便 (視察研修 6 号)



20190217 福島 93 便 (視察研修 6 号)

【事業4：情報発信】



20180623 総会



20180623 勉強会



20190117 第7回講演会 (小幡広宣さん)



20190117 第7回講演会 (小幡広宣さん)

【維持管理】 現地訪問など



20180529 福島訪問1 (ふたすけ)



20180907 福島訪問2 (新地町)



20181111 福島訪問3 (相馬市、小幡さん)



20190322 福島訪問4 (ふたばいんふお)

【その他】有志活動など



20180729 有志便 (2018 相馬野馬追)



20180820 美味しいふくしま伝え隊



20181118 『新地町の漁師たち』横浜上映会



20181118 『新地町の漁師たち』横浜上映会

4.2.10 2019 年度の活動様子



20190420 福島 103 便
(川内村 06 号)



20190526 福島 104 便
(葛尾村)



20190615
第 8 回勉強会



20190629 福島 107 便
(ビーチクリーン)



20190629 福島 107 便
(ビーチクリーン)



20190824 福島 108 便
(川内村 08 号)



20190824 福島 108 便
(川内村 08 号)



20191102 福島 113 便
(台風 19 号復旧支援 1 号)
南相馬市原町区



20191103 福島 113 便
(台風 19 号復旧支援 1 号)
本宮市社協



20191103 福島 113 便
(台風 19 号復旧支援 1 号)



20191105 福島 112 便
(双葉ワールド)



20191105 福島 112 便
(双葉ワールド)



20191105 福島 112 便
 (葛尾村 05 号)



20191105 福島 112 便
 (葛尾村 05 号)



20191105 福島 112 便
 (地元のお母さん)



20191105 福島 112 便
 (田圃のご主人)



20191105 福島 112 便
 (稲刈り参加)



20191105 福島 112 便
 (設営手伝い)



20191116 福島 114 便
 (視察研修 7 号 : 富岡町)



20191116 福島 114 便
 (視察研修 7 号・富岡町)



20191116 福島 114 便
 (廃炉資料館)



20191116 福島 114 便
 (廃炉資料館)



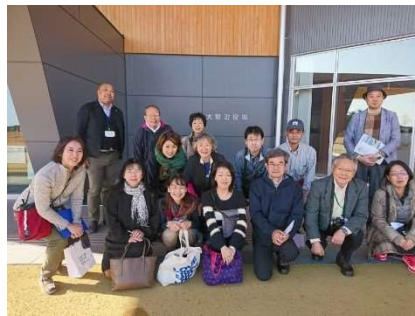
20191116 福島 114 便
 (ふたばいんふお)



20191116 福島 114 便
 (富岡ホテル)



20191117 福島 114 便
 (富岡ホテル前)



20191117 福島 114 便
 (大熊町役場前)



20191117 福島 114 便
 (6号線)



20191117 福島 114 便
 (大熊町内)



20191117 福島 114 便
 (大熊町庁舎)



20191117 福島 114 便
 (木戸川漁協)



20191117 福島 114 便
 (鮭やな場)



20191117 福島 114 便
 (鈴木さんご説明)



20191117 福島 114 便
 (ご説明)



20191117 福島 114 便
 (やな場)



20191117 福島 114 便
 (鮭の卵)



20191117 福島 114 便
 (昼食)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫



20191117 福島 114 便
 (参加者作成・回った先)



20191129 福島 117 便
 (台風 19 号復旧支援 3 号)
 いわき市



20191129 福島 117 便
 (台風 19 号復旧支援 3 号)
 いわき市



20191129 福島 117 便
 (台風 19 号復旧支援 3 号)
 いわき市



20191214 福島 115 便
 (川内村 11 号)
 地元のお母さん



20191214 福島 115 便 (川内村 11 号)
 高田島ヴィンヤード



20191214 福島 115 便
 (川内村 11 号)



20200118 第 9 回講演会
 (吉川彰浩さん)



20200118 第 9 回講演会
 (吉川彰浩さん)



20200118 第 9 回講演会
 (吉川彰浩さん、懇親会)



20200129
 美味しいふくしま@銀座



20200129
 美味しいふくしま@銀座

4.2.11 2020年度の活動様子

 <p>20200517 葛尾村田植え (活動見合わせ時の様子)</p>	 <p>20200517 葛尾村田植え (活動見合わせ時の様子)</p>	 <p>20200517 高田島 (活動見合わせ後の様子)</p>
 <p>20200530 第10回勉強会#1</p>	 <p>20200530 第10回勉強会#1</p>	 <p>20200530 第10回勉強会#1</p>
 <p>20200620 第9回総会</p>	 <p>20200620 第9回総会</p>	 <p>20200809 ふたすけコット交流会</p>
 <p>20200809 ふたすけコット交流会</p>	 <p>20200905 第10回勉強会#2</p>	 <p>20200924 小高駅発「Way-Way」 (オンライン参加)</p>



20201121 福島 131 便
 (現地訪問 33)



20201121 福島 131 便
 (現地訪問 33)



20201121 福島 131 便
 (現地訪問 33)



20201121 福島 131 便
 (現地訪問 33)



20201121 福島 131 便
 (現地訪問 33)



20201121 福島 131 便
 (現地訪問 33)



20201121 福島 131 便
 (現地訪問 33)



20201121 福島 131 便
 (現地訪問 33)



20201121 福島 131 便
 (現地訪問 33)

内容 「コロナ禍における災害ボランティアセンター」
 「地域の受援力を高めるために」
 定員 40名 (事前申込制・参加費無料)
 ※感染状況により内容や定員、実施方法が変更になる可能性があります。
 ※申込み方法・施設は、裏面に記載してあります。本講演は、「災害ボランティアコーディネーター養成講座」の今後の担当公開講座として開催するものです。
 講師 高山弘毅 (たかやまひろき) 氏
 出身：1976年 群馬県前橋市生まれ
 現職：緑葉村社会福祉協議会学童保育所所長
 Nakiho 代表
 主な災害支援活動：
 「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」の推進により、全国各地の災害ボランティアセンターの運営を支援。2014年には、東京により地元が被災し「飯橋市光栄たすけあいセンター」を運営するなど、災害被害の軽減を期する多数の実績を持つ災害ボランティア活動支援の第一人者。現在は、個人事業所「Nakiho」を立ち上げ、「人がより良く暮らすこと」の支援に専ら取り組んでいる。

20210124 相模原市社協
 公開講座 (オンライン参加)

かながわ「福島応援」プロジェクト
 2020年度 第11回講演会
 「地域とともにある酒造り」
 ～鈴木酒造店の酒造りにかける思い～
 お話：鈴木酒造店 鈴木大介さん
 ●日時：2021年2月6日(土) 15:00～17:00
 ●場所：オンライン (福島県浪江町、山形県長井市、神奈川県、関東)

20210206
 第11回講演会



20210206
 第11回講演会



20210206
第11回講演会



20210206
第11回講演会



20210206
第11回講演会



20210206
第11回講演会



20210206
第11回講演会



20210206
第11回講演会



20210206
第11回講演会



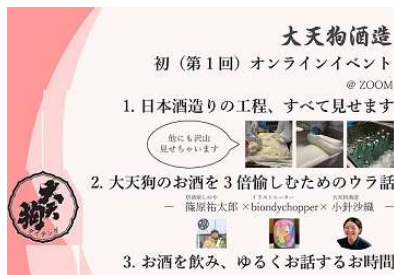
20210214 葛尾村祝言式
(オンライン参加)



20210214 葛尾村祝言式
(オンライン参加)



20210227 fukunomo
(オンライン参加)



20210306 大天狗酒造
(オンライン参加)



20210306 利酒コンサート
(オンライン参加)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

4.2.12 2021年度の活動様子

 <p>20210410-11-福島 135 便 (富岡コットン畑)</p>	 <p>20210410-11-福島 135 便 (富岡コットン畑)</p>	<p>勉強会 報告書 聞いてみよう、話してみよう、 廃炉のこと 開催日：2021年7月17日(土)</p> <p>20210717-勉強会 (対話：廃炉のこと)</p>
 <p>20210717-勉強会 (対話：廃炉のこと)</p>	 <p>20211120-21 福島 145 便 (視察研修 08 号)</p>	 <p>20211120-21 福島 145 便 (視察研修 08 号)</p>
 <p>20211120-21 福島 145 便 (視察研修 08 号)</p>	 <p>20211120-21 福島 145 便 (視察研修 08 号)</p>	 <p>20211211-12-福島 147 便 (視察研修 9 号) 浪江町+小高区</p>
 <p>20211211-12-福島 147 便 (視察研修 9 号) 浪江町+小高区</p>	<p>kfop講演会「双葉町～震災から10年の歩み、思い、そしてこれから～」</p>  <p>双葉町 震災から10年の歩み、思い、そしてこれから</p> <p>2022年1月15日(土) 14:00～16:00 (開場13:30) 会場：オンライン開催 参加費無料</p> <p>20220115-講演会 (第12回講演会)</p>	<p>azbil みつばち倶楽部会員の皆様 アズビル株式会社の皆様 ご支援に感謝申し上げます。</p> <p>かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)は、福島応援を続けています。一人でも多くみなさんと、神奈川から福島に元気と笑顔があふれるように互いの心を伝え、長く関わっていくことを活動方針としています。</p> <p>当団体は、 2011年3月11日の東日本大震災後に活動を開始 ◆2011年10月より有志で活動を開始 ◆2012年1月11日に任意団体を設立 ◆2012年4月からバスで福島応援を開始 そして、東日本大震災から丸11年です。</p> <p>20200316 azbil カンファレンス (オンライン参加)</p>



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画》

保護ページ